

生態系保全アクションプラン 平成 25 年度事業進捗及び平成 26 年度事業計画 (詳細事業内容)

実施機関：環境省

事業項目			平成 24 年度		平成 25 年度(見込み)			平成 26 年度予定	課題・備考	
種名	環	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	モニタリング項目	事業進捗		
ノヤギ・ノネコ	環 1	外来ほ乳類対策およびノネコ対策調査業務 小笠原国立公園父島東平自然再生区管理業務(柵の維持管理)	父島	東平外周柵の維持管理(継続) ノネコ捕獲(継続) ノヤギ排除(継続) ・ノヤギ排除作業(銃器及びわな)の継続。 ・ノヤギ生息状況及び植生のモニタリングの継続 ノヤギ排除に関して、島民等への周知、報告等の実施。	柵維持管理(継続) H24 年度、父島山域で 14 頭を捕獲(2 月末まで)。 ノヤギ排除 ・H24 年度、柵内で 24 頭を排除し、1 月下旬に確認されている柵内のノヤギ排除を完了(H22 年度以降、柵内で累計 135 頭を排除。) ・ノヤギによる食害がなくなった他は植生に大きな変化はない。侵入防止柵沿いには外来樹木数種の実生が出現した。島民等への事業の周知、進捗の報告の実施。	維持管理(継続) 山域におけるノネコモニタリング及び捕獲、捕獲したネコの一時飼養及び搬送。東平生態系モニタリング及び保全方針検討会の開催(継続) ノヤギ排除 ・ノヤギ根絶確認及び植生のモニタリングの継続	外来生物モニタリング (ノネコ)山域におけるセンサーカメラによるモニタリング (ネズミ類)東平柵内を中心とする生息状況モニタリング (ノヤギ)東平柵内において、生息状況をモニタリング。 (外来植物)柵沿い、柵内を中心に、外来植物の侵入状況をモニタリング。 生態系モニタリング ネズミ・ノヤギの排除の効果把握のために、鳥類、植物の調査を実施。	外来生物 ・父島山域において、6 頭程度を捕獲(暫定) ・山域のノネコは、低密度状態で推移している。 ・ノヤギについては、東平地区においては、排除が完了した。 ・外来植物については、柵を作ったことによる新たな拡散は見られない。 生態系モニタリング ・東平地区では、ノヤギの食害の恐れに関して、希少植物群落への悪影響が出る前に排除された。	柵の維持管理 東平柵内におけるノヤギ根絶のモニタリング及び確認時の排除作業の実施 父島山域におけるノネコ捕獲の継続。 保全対象の在来植物、鳥類の保全のための取り組みを引き続き実施。	平成 25 年度「東平地区の生態系保全方針に関する検討会」において東平ノヤギ・ノネコ排除区において、ノヤギの完全排除を確認。引き続き同検討会において課題を整理・検討。
ノネコ	環 2	ノネコ対策調査業務	母島	ノネコのモニタリング及び捕獲(継続)	H22 年度から引き続き、モニタリング及びモニタリング状況に応じて周辺域におけるノネコの排除を実施。H24 年度は、4 頭を捕獲。	南崎半島部およびその他山域でのノネコのモニタリング及び試験捕獲、捕獲したネコの一時飼養及び搬送、南崎フェンス内海鳥モニタリング(継続)	ノネコのモニタリング カメラによるモニタリングを実施。 生態系モニタリング 南崎フェンス内の海鳥のモニタリングを実施。	・対策前の父島と同程度の密度があると推定される。また、全島的な捕獲体制が構築されていないため、母島南部において、試験的な捕獲体制の構築を実施した。 ・本業務では、5 頭程度を捕獲(暫定)	引き続き、試験的な捕獲体制の構築を実施。	
	環 3	外来ほ乳類対策	兄島、弟島	モニタリングを縮小する。他分野の調査等と協力し、残存個体の情報が得られた場合、捕獲等の対策を速やかに行う。	兄島・弟島両島に関して、残存個体の情報なし。	モニタリングは実施せず。他分野の調査等と協力し、残存個体の情報が得られた場合、捕獲等の対策を速やかに行う。	モニタリングは実施せず。		モニタリングは実施せず。	
ノブタ	環 4	外来ほ乳類対策	弟島	他分野の調査等と協力し、残存個体の情報が得られた場合、捕獲等の対策を速やかに行う。	弟島でのノブタの痕跡等は確認されなかった。	モニタリングは実施せず。他分野の調査等と協力し、残存個体の情報が得られた場合、捕獲等の対策を速やかに行う。	モニタリングは実施せず。		モニタリングは実施せず。	平成 21 年 11 月の科学委員会で根絶を発表
クマネズミ	環 5	外来ほ乳類対策調査	聳島列島、父島列島、母島列島	既駆除地域でのモニタリング調査の継続 弟島から兄島への再侵入対策の継続 オガサワラノスリなど鳥類、植物、陸産貝類などのモニタリングの継続 駆除手法の改善に関する検討、および弟島での再駆除、母島属島での駆除実施と、駆除前のネズミ類・非標的種生息状況調査の実施	既駆除地でのモニタリングの結果、弟島にくわえて、兄島での駆除後初確認があった。弟島南部での部分的防除を実施 兄島、弟島においてオガサワラノスリの繁殖率の上昇傾向を把握。弟島での植物の食害再開を確認。兄島の陸産貝類では今のところ顕著な食害が生じていない。 第 1 世代による駆除時の手法改善を検討。島嶼ごとの駆除の優先順位を整理。優先順位の高い母島属島における島ごとの優先順位、非標的種生息状況調査、配慮手法の検討整理を実施。第 2 世代の試験的利用に関する条件整理を実施。	未根絶島嶼における中長期計画策定。 既駆除地域でのモニタリング調査の継続 根絶技術・コントロール技術確立の検討。根絶島嶼における再侵入防止手法の検討。 オガサワラノスリなど鳥類、植物、陸産貝類などを調査対象とした生態系モニタリングの継続 駆除手法の改善に関する検討、駆除前のネズミ類・非標的種生息状況調査の実施	外来生物モニタリング (ネズミ類)聳島列島、父島列島各島における生息状況モニタリング 生態系モニタリング ネズミ等の排除の効果把握のために、在来哺乳類、鳥類(海鳥含む)、陸産貝類、植物の調査を実施。	外来生物モニタリング 父島属島において、一時的に排除したネズミが、再度確認された。再侵入か、生残個体が増えたものかは不明。 在来生物モニタリング 兄島においては、ネズミが一時的にほぼ根絶に近い状態になったことにより、2~3 年程度で、植物種、陸産貝類等に回復の傾向がみられる。	在来生物モニタリングの結果を踏まえ、属島でのネズミ類の駆除の実施可否を検討。	「ネズミ類対策検討会」において検討

事業項目			平成 24 年度		平成 25 年度（見込み）			平成 26 年度予定	課題・備考	
種名	環	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	モニタリング項目	事業進捗		
グリーンアノール	環 6	兄島グリーンアノール対策調査、兄島グリーンアノール重点防除対策、兄島グリーンアノール柵設置 他	兄島、父島	-	-	捕獲、センサス作業 防除柵の設置 昆虫類の生息状況調査	・粘着トラップ、防除柵によるグリーンアノールの検出 ・グリーンアノール分布域の把握 ・捕獲効率による個体群への密度 ・昆虫類の生息状況把握	約 38000 個のトラップを設置し、約 7000 個体のアノールを捕獲。また、捕獲及びセンサスの結果、約 60ha で生息が確認され、およその分布範囲を 178ha と推測した。 Aラインの内約 80m、Bラインの内約 900m を施工。 現在のところ、捕食による昆虫類への影響は確認されていない。	捕獲、センサス作業の実施 Bラインの残り区間への柵の設置 昆虫類の生息状況調査	グリーンアノール対策 WG を設置
グリーンアノール オオヒキガエル	環 7	外来生物重点防除事業（父島アノール対策）	父島	重点防除区域を中心に、グリーンアノールの捕獲及び生息状況モニタリングを継続。 ・重点防除区域等において、植生管理等の効果を評価。 属島へのアノール等の侵入状況の把握、侵入に対する早期対処の作業を実施。 ・重点防除区域等へのアノールの移動等を把握する。 オオヒキガエルの防除方法、体制等を検討し、重要地域における試験捕獲を実施。 ・兄島でオオヒキガエル生息状況調査を実施する。 島民等に対する業務の普及啓発を実施し、普及啓発用展示物や啓発資料を作成。	二見港周辺において、捕獲開始から H25 年 1 月までにアノール約 9,100 個体を捕獲。防除区域外に比べ、重点防除区域での密度は 3 割に低減できた。 踏査と関係者への聞き取り等の結果、アノール・オオヒキガエルの属島への侵入は確認されなかった（2013 年 1 月現在）。 ・属島利用マニュアル案を作成し、ガイドに配布した。 ・記号放逐調査等により、行動圏や移動パターンを確かめた。 兄島で音声モニタリングの結果、オオヒキガエルの生息は確認されなかった。残存の可能性は低い。 パンフレットの増刷、保全対象種（オガサワラハンミョウ）の樹脂封入標本製作、講演会と写真展を実施。	重点防除区域を中心に、グリーンアノールの捕獲及び生息状況のモニタリングを継続する。 オオヒキガエル対策（兄島アノール対策への予算振替のため、中止）	グリーンアノール 生息状況調査	グリーンアノール 継続実施。	グリーンアノール 継続実施。 オオヒキガエル 対策を中止（兄島でのアノール対策のため）	
グリーンアノール オオヒキガエル	環 8	外来両生爬虫類対策事業（母島アノール対策事業）	母島	新夕日ヶ丘及び南崎自然再生区においてアノールとオオヒキガエルの排除作業を継続。 外来種除去による影響緩和に伴う昆虫類及び土壌動物等の回復状況モニタリング。外来植物等の試験駆除とモニタリングを実施。新夕日ヶ丘を小笠原国立公園における自然再生事業を情報発信する場として活用できるよう、住民と連携して自然再生を進める。 自然再生区以外の希少昆虫等の重要な生息場所におけるアノールやオオヒキガエルの防除の実施。	（新夕日ヶ丘）アノールの集中捕獲とモニタリングを継続し、低密度状態を維持。オオヒキガエルの侵入を阻止。 （南崎）草原部ではアノールの捕獲とモニタリングを実施した。オオヒキガエルは未確認。 （新夕日ヶ丘）草地性昆虫類の回復を確認。地元住民と連携してオガサワラシジミのモニタリングを実施し、植栽した在来樹での羽化を確認。 （南崎）草原部では、スジヒメカタゾウムシの安定的な生息を確認。周辺でのオガサワラセセリの生息を確認。 （蓮池）遮断柵によりオオヒキガエルの繁殖を阻止。周辺では、踏査の際に成体を発見。 （石門）アノールの捕獲とモニタリングを実施。	新夕日ヶ丘自然再生区においてアノールの排除作業を継続。外来種除去による影響緩和に伴う昆虫類の回復状況をモニタリングする。 新たな新夕日ヶ丘WGの開催 希少昆虫の重要な生息場所である石門における、アノール防除の実施。	・新夕日ヶ丘自然再生区におけるグリーンアノールの生息状況 ・保全対象であるオガサワラシジミの生息状況	グリーンアノールの低密度化が維持されている。 島内全体で、シジミの確認数が減少した（台風の影響によるものと推測されている。） WGを開催し、地域と協働した自然再生事業の在り方を検討。	グリーンアノール 新夕日ヶ丘の自然再生区、及び石門において、防除対策及び保全対象種のモニタリングを継続 オオヒキガエル 対策を中止（兄島アノール対策への振り替えのため）	「平成 22 年度より新夕日ヶ丘 WG」を設置し、検討。

事業項目			平成 24 年度		平成 25 年度（見込み）			平成 26 年度予定	課題・備考
種名	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	モニタリング項目	事業進捗		
ウシガエル	環 9 外来両生爬虫類対策事業	弟島	監視を継続する。万一、残存個体の生息が疑われる場合は適切に対処する。 継続して人工池の管理を行って、固有トンボ類の生息場所を確保する。	音声モニタリングを継続したが、ウシガエルの生息は認められなかった。残存する可能性は極めて低い。 トンボ類の人工繁殖池を維持管理した。人工池で固有トンボ類が安定的に繁殖しているのが確認された。	・弟島のトンボ池メンテナンスの継続		・メンテナンスを実施	・弟島トンボ池メンテナンスの継続実施。	平成 21 年 11 月の科学委員会で根絶を発表
ニューギニアヤリガタリクウズムシ	環 10 ブラナリア拡散防止対策業務 陸産貝類域外保全業務 外来生物重点防除業務	父島	重要地域のブラナリア類及び陸産貝類の生息調査 域外保全技術の検討(野外飼育施設の改良、技術確立の検討。 ブラナリア侵入防止柵の設計 再導入区域での保全策、管理手法(ブラナリア類の低密度化実験、ブラナリア類の侵入防止実験等)の検討 ブラナリア類除去装置の維持管理(父島高山・南崎、母島乳房山、南崎) 普及啓発(ブラナリア類と固有陸産貝類に関するパンフレット作成)	重要地域の1地域において、ニューギニアヤリガタリクウズムシの侵入が確認された。カママイの唯一の生存地域での確認がなかったほか、固有陸産貝類の密度の低下や激減した種が確認された。 陸産貝類の野外飼育施設改良を行い、実験を継続中。 ブラナリアを忌避及び殺虫する天然成分由来の薬剤を用いた侵入防止柵の設計、実験開始。 通電テープ及び殺虫剤を用いたエリア排除手法の実験を実施。 ブラナリア類除去装置の維持管理の継続。 パンフレット「小笠原に持ち込まれた生きものたち・ブラナリア類」作成・配布予定。	重要地域のブラナリア類及び陸産貝類の生息調査 域外保全技術の検討(野外飼育施設の改良、技術確立の検討。 生息地保全手法の検討(ブラナリア侵入防止柵の設計及び設置) 再導入区域での保全策、管理手法(ブラナリア類の低密度化実験、ブラナリア類の侵入防止実験等)の検討 ブラナリア類除去装置の維持管理(父島：高山・南崎地域、母島：乳房山、南崎)。 普及啓発	ブラナリア分布調査	ブラナリア 平成 25 年 10 月に鳥山地域に侵入したことが確認されたため、以下の対応を実施した。 (10月下旬) ・侵入確認地周辺の裸地化(11~12月) ・殺虫板センサー等による分布域の把握(12-1月) ・分布域把握の継続 ・囲い込み柵の設置	ブラナリア 鳥山地域での対策の推進(囲い込み柵、侵入防止柵の設置等)	「ブラナリア対策・陸産貝類検討会」において検討
固有陸産貝類			父島における域外保全技術の確立(室内飼育と繁殖技術の確立、野外飼育手法の検討、飼育個体の遺伝子変動把握) 室内飼育マニュアル作成 母島における域外保全のための基礎情報の収集。	父島において恒温機による室内飼育を継続。危機的状況にある種・個体群の捕獲及び飼育開始。H25年2月現在4種5個体群80個体を飼育中(カママイ22、キボリカママイ23、フジマカママイ27、(新規)アカママイ8)。繁殖を試み、カママイ及びキボリカママイで孵化、フジマカママイで産卵。野外施設内で網室を用いた飼育の試行を開始。 飼育体制検討のため、飼育トレーニングを実施。飼育マニュアルを更新予定。 母島の23地点において陸産貝類の生息状況を把握。同時にブラナリアの生息状況も把握。	父島における域外保全技術の確立(室内飼育と繁殖技術の確立、野外飼育手法の検討、飼育個体の遺伝子変動把握) 飼育マニュアル作成(室内飼育マニュアル改訂、屋外飼育マニュアル作成) 母島における域外保全のための基礎情報の収集。 母島島内の域外保全手法の課題整理(ニューギニアヤリガタリクウズムシ侵入に備えた手法検討)	陸産貝類 父島島内の陸産貝類の生残地域におけるモニタリング(鳥山、巽崎、南崎、千尋岩等)	陸産貝類 現時点で、鳥山、巽崎では、かろうじて残されている。南崎、千尋岩等他の地域では、ほとんどの種が絶滅に近い状態となった。	陸産貝類 モニタリングの継続。 再導入を視野に入れた域外保全の推進	
アカギ	環 11 アカギ対策検討調査	母島	母島北部を中心とした私有地における駆除試験の実施。 母島新夕日ヶ丘再生区内における植生回復(外来樹木等の駆除等)の継続実施 既往試験地の再処理とモニタリング 普及啓発の実施	母島北部私有地における駆除試験を実施(衣箱地区) 母島既往試験地におけるモニタリング調査の実施 母島新夕日ヶ丘再生区内における外来樹木の枯殺処理 母島におけるイエシロアリの分布に関する調査 アカギ材を用いた木工教室等の開催による普及啓発	母島北部を中心とした私有地における駆除試験の実施。 母島新夕日ヶ丘再生区内における植生回復(外来樹木等の駆除等)の継続実施 既往試験地の再処理とモニタリング 普及啓発の実施	アカギ 事業区域内のアカギの生息状況 在来植生 在来植生の回復状況のモニタリング	アカギ 母樹処理がほぼ完了した。アカギの更新状況が、場所により差がみられる。アカギの実生の更新状況に応じた対策を実施。 在来植生 アカギの更新状況に応じ、在来種の回復状況も場所によって差が出ている。	外来植物対策(母島列島)として実施。 (母島)場所により、アカギの更新状況に差がみられる。実生の更新状況に応じた対策を実施。 (姪島、妹島)モクマオウ等は排除済み。モニタリングを継続 在来植生 在来植生回復状況のモニタリング	・私有地については、土地登記者が高齢化しており、戦前居住していた方などは連絡の追跡が難しく、こうした一部の土地で駆除が実施できない状況である。 ・未駆除地が種子の供給源となって駆除後のエリアへの侵入が懸念される。

事業項目			平成 24 年度		平成 25 年度（見込み）			平成 26 年度予定	課題・備考	
種名	環	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	モニタリング項目	事業進捗		
モクマオウ（リュウキュウマツを含む）	環 12	外来植物対策調査業務	父島、兄島、弟島、妹島、姪島	兄島・弟島における駆除及び監視の実施 弟島における新規外来種の対策試験の検討・着手（ガジュマル成木）。 妹島におけるギンネム根絶に向けた継続的な枯殺処理と既往処理箇所（リュウキュウマツ、ギンネム）のモニタリング 姪島におけるリュウゼツランの駆除試験の検討・着手。既往処理箇所（モクマオウ）のモニタリング 除草剤による枯殺手法の確立試験の継続	既往試験地（兄島）におけるモニタリングと追加枯殺処理の実施 既往試験地（弟島）におけるアカギ・ギンネム等の根絶に向けた駆除処理 弟島におけるノヤシ保全のためのカンショオサゾウムシ防除対策の検討 妹島（リュウキュウマツ、ギンネム）、姪島（モクマオウ）における外来樹木の駆除試験の継続 父島東平柵内の外来植物の追加駆除の実施 除草剤（ラウンドアップ以外）による枯殺試験の実施と経過観察による枯殺効果の確認調査の実施	兄島・弟島における駆除及び監視の実施 弟島における新規外来種の対策試験の検討・着手（ガジュマル成木）。 妹島におけるギンネム根絶に向けた継続的な枯殺処理と既往処理箇所（リュウキュウマツ、ギンネム）のモニタリング 姪島におけるリュウゼツランの駆除試験の検討・着手。既往処理箇所（モクマオウ）のモニタリング 除草剤による枯殺手法の確立試験の継続	外来植物 兄島で実施 弟島等では中止	外来植物対策（父島列島）として、実施。 （父島）希少植物保全や景観に配慮した外来植物駆除を実施。 （兄島、弟島）希少植物、昆虫類等の保全のための外来植物対策の実施。		
アカガシラカラスバト	環 13	アカガシラカラスバト保護増殖事業に関する調査等業務	父島列島	目撃情報収集、標識装着、センサーカメラモニタリングによる、生息状況の把握 検討会の開催	・父島列島及び母島列島における目撃情報は前年に比べ、特に若鳥に増加が見られた。 ・島間移動が多数確認された。 ・繁殖域が乾性低木林内に拡大した。 ・父島・母島・北硫黄島で合計 39 羽装着した。（H24.9 まで）	目撃情報収集、標識装着、センサーカメラモニタリングによる、生息状況の把握 検討会の開催	・目撃情報の収集 ・標識装着 ・センサーカメラによるモニタリング	H24 同様、特に夏期の若鳥の目撃情報が増加。また、繁殖域の乾性低木林への拡大を確認。 関係機関と、保護増殖事業の今後 5 年間の中期計画を策定。 ・個体数の推定を行った。 ・現地連絡会との緊急連絡体制を整備した。	生息状況把握の継続 個体数推定と生息状況の評価の継続	アカガシラカラスバト保護増殖検討会を設置
オガサワラオオコウモリ	環 14	オガサワラオオコウモリ保護増殖事業	父島	ねぐら周辺の巡視	・現地における連絡体制と共に状況把握に努めている。	繁殖期のねぐら周辺の巡視強化 関係機関と、現地課題の情報共有を行い、対応を検討。	・ねぐら周辺のトラブルの把握		繁殖期のねぐら周辺の巡視強化 関係機関と連携し、現地における課題整理により、事業展開の方向性の検討を継続。	実質的な事業展開に至っていない。
希少昆虫類	環 15	小笠原希少昆虫保護増殖事業に関する調査等業務	父島列島、母島、域外保全施設	昆虫 5 種の生息状況調査及び生息環境調査を継続。 ハンミョウの域外保全を継続。 弟島のシュロガヤツリ（外来植物）の駆除を継続。 住民説明会を開催。 専門家打合せ、連絡会議を開催。	ハンミョウ、トンボ類については未調査地を含め広範囲に調査を実施し、新たな生息地を確認した。 ハンミョウの生息域外保全を継続 弟島のシュロガヤツリ（外来植物）の駆除を継続。 地元小学校を対象にした説明会を開催。 専門家打合せ、連絡会議を開催。	昆虫 5 種の生息状況調査及び生息環境調査を継続。 ハンミョウの生息域外保全を継続 専門家打合せ、連絡会議の開催	・ハンミョウの生息状況、生息環境（餌資源、土壌環境）調査 ・ハナダカトンボの生息状況、生息環境（水温）調査 ・オガシジミの生息状況、生息環境（食樹の開花状況）調査	ハンミョウ、母島のハナダカトンボの生息状況が悪化している。また、多くの沢で枯渇が確認されている。 飼育個体は順調に増加しており、再導入に向けた簡易飼育の技術確立を開始した。 連絡会議において、昆虫類全体の課題を整理した。	対象種の生息状況把握。特に、外来種駆除等と連携したモニタリングの実施を検討。 ハンミョウ域外保全の継続、簡易飼育に向けた技術確立試験 専門家打合せ、連絡会議の開催	小笠原希少昆虫保護増殖事業連絡会議及び同専門家打合せを設置
希少植物	環 16	小笠原希少野生植物保護増殖事業、小笠原希少野生植物管理業務	父島、兄島、母島、妹島、域外保全施設	対象 12 種以下を実施 生育状況、生息環境調査 生育環境の維持改善 域外保全施設における系統保存、増殖技術の試験等 自生個体の人工授粉、播種試験等の植栽を実施 植栽に関する検討会を開催 生育地の土壌等環境条件の調査及び生育適地の解析	モニタリングの結果により種ごとの課題を抽出。 ノヤギ、ネズミ食害防止柵の設置及び維持管理を実施。 実施 4 種の植栽計画を整理、1 種について植栽計画を改定 生育基盤の地理的情報を整備。	生育状況、生息環境調査の継続 抽出した課題に応じ、外来種駆除等生育環境改善の手法を提案（外来植物対策業務において、実施） 域外保全施設における系統保存、増殖技術の試験等の継続。 自生個体の人工授粉、播種試験等による更新を補完	・各種の健全度、開花・結実状況等を把握し、個体毎に管理	東平柵内のノヤギ食害防止柵の撤去、ネズミ食害が見られる個体への対策を実施 対象 8 種の生息地において、外来植物対策業務と連携し、外来植物駆除による生育環境改善を実施。 他試験機関へ協力を依頼し、ムニンツツジの遺伝子解析を実施。	・H25 事業の継続 ・科学的な助言等を得るため新たな検討体制を整備（検討会の設置等）	H23、H24 と、小笠原希少植物保護増殖事業「植栽」に関する検討会を開催し、植栽方法について検討

関東地方環境事務所にて実施

実施機関：林野庁

事業項目				平成 24 年度		平成 25 年度（見込み）			平成 26 年度予定	課題・備考
種名		事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	モニタリング項目	事業進捗		
アカギ、モクマオウ、リュウキュウマツ等	林 1	森林生態系の修復を目的とした外来植物の駆除	父島、兄島、弟島、母島、向島等	薬剤注入等によるアカギ、リュウキュウマツ、モクマオウ等の駆除を、父島東部（約 8ha）、弟島（約 8ha）、兄島（約 24ha）、西島（約 3ha）、東島（約 14ha）、母島（石門約 1ha）、向島（約 2ha）で実施。また、アカギ等の稚幼樹の抜き取り等を父島、兄島、弟島、母島（石門、南崎）において併せて実施。 25 年度以降の駆除予定木調査を父島東部（約 37ha）、弟島（約 20ha）、兄島（約 11ha）、東島（約 3ha）、母島（約 18ha）で実施 事前・事後モニタリング調査を上述の箇所等で実施。	薬剤注入等によるアカギ、リュウキュウマツ、モクマオウ等の駆除を、父島東部（約 8ha）、弟島（約 8ha）、兄島（約 34ha）、西島（約 3ha）、東島（約 14ha）、母島（石門約 1ha）、向島（約 2ha）で実施（計約 72ha）。また、アカギ等の稚幼樹の抜き取り等を父島、兄島、弟島、母島（石門、南崎）において併せて実施。 25 年度以降の駆除予定木調査を父島東部（約 37ha）、弟島（約 20ha）、兄島（約 11ha）、東島（約 3ha）、母島（約 18ha）で実施（計 89ha） 事前・事後モニタリング調査を上述の箇所等で実施。	薬剤注入等によるアカギ、リュウキュウマツ、モクマオウ、ギンネム等の駆除を、父島東部（約 18ha）、弟島（約 16ha）、兄島（約 4ha）、西島（約 4ha）、母島（堺が岳外約 20ha）、向島（約 2ha）で実施（計約 92ha）。なお、アカギ等の稚幼樹の抜き取り等を父島、兄島、弟島、母島（石門、南崎）において併せて実施。 26 年度以降の駆除予定木調査を弟島（約 20ha）、兄島（約 26ha）、西島（約 2ha）で実施（計 48ha）。	事前モニタリング；駆除予定箇所において、鳥類調査、昆虫類調査、陸産貝類調査、植生調査、陸水動物調査 を実施。 事後モニタリング；平成 25 年度に新たに外来植物駆除を開始した地域について、駆除等が終了した時点で事後モニタリングを実施。	（事業内容の通り）	薬剤注入等によるアカギ、リュウキュウマツ、モクマオウ、ギンネム等の駆除を、父島桑ノ木山（約 14ha）、弟島広根山（約 8ha、弟島一の谷（約 20ha、兄島北二子外（約 18ha、兄島滝之浦（約 1ha）、兄島万作浜北側（約 7h）a、兄島丸山岬（約 3ha）、西島（約 3ha）、東島（約 1 ha）、母島堺ヶ岳稜線～石門（約 48h）a、船木山稜線（約 4ha）、母島桑ノ木山（約 3ha）、向島（約 1ha）。計約 131ha の外来種駆除等を予定 27 年度以降の駆除予定木調査を弟島（約 11ha）、兄島（約 50ha）、計約 61ha を実施予定） 事前・事後モニタリング調査を上述の箇所等で実施予定。	「保全管理委員会」で事業計画等を承認。 「固有生態系修復事業検討委員会」で具体的駆除の進め方等を検討。
その他外来植物、普及啓発等	林 2	小笠原原生植生回復ボランティア	母島	母島桑の木山において、内地及び現地ボランティアの協力を得て、外来植物（アカギ等）の抜き取り等を実施。	・母島桑の木山において、外来植物（アカギ等）の抜き取り等を実施。 （実施日 24.11.8 参加者内地ボランティア 24 人、現地ボランティア 4 人及び現地スタッフ等 10 人 合計 38 人により実施）	母島桑の木山において、内地及び現地ボランティアの協力を得て、外来植物（アカギ等）の抜き取り等を予定。		・母島桑の木山において、外来植物（アカギ等）の抜き取り等を実施。 （実施日 24.11.8 参加者内地ボランティア 24 人、現地ボランティア 4 人及び現地スタッフ等 10 人 合計 38 人により実施）	25 年度に引き続き実施予定	
	林 3	外来植物駆除作業体験への協力等	父島、兄島等	23 年度に引き続き、小笠原中学校、高校の駆除体験活動等に協力する実施		24 年度に引き続き、小笠原中学校、高校の駆除体験活動等に協力		・小笠原中学校、高校の駆除体験活動等を実施	25 年度に引き続き実施予定	

事業項目			平成 24 年度		平成 25 年度（見込み）			平成 26 年度予定	課題・備考	
種名	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	モニタリング項目	事業進捗			
	林 4	地元 N P O と連携した外来植物駆除	父島等	平成 23 年 6 月に特定非営利活動法人小笠原自然文化研究所と東島の約 26ha について、協定を締結した。 協定を締結した 4 つの地元 N P O 等と協働・連携し、固有森林生態系の修復・保全のための外来種駆除や固有動植物の調査等を実施。	村民の森（NPO 法人小笠原野生生物研究会） ・会員によるシマホルトノキ植栽 ・会員によるモクマオウ、リュウキュウマツ、ギンネム外来種駆除。林内道路外来種刈り払い ハトの森林（小笠原自然観察指導員連絡会） ・現地域の確認及び植生状況事前調査 西島の固有森林生態系の修復と保全の森（小笠原クラブ） ・トンボ池のメンテナンス及びモニタリング ・森林生態系保全活動を題材とした環境教育プログラムを実施 東島森林性海鳥の地（NPO 小笠原自然文化研究所） ・会員による森林内営巣センサス調査区内の営巣状況記録、海鳥繁殖環境モニタリングを実施	協定を締結した 4 つの地元 N P O 等と協働・連携し、固有森林生態系の修復・保全のための外来種駆除や固有動植物の調査等を実施		村民の森（NPO 法人小笠原野生生物研究会） ・会員によるモクマオウ、リュウキュウマツ、ギンネム外来種駆除。 ハトの森林（小笠原自然観察指導員連絡会） ・自然観察会の実施 西島の固有森林生態系の修復と保全の森（小笠原クラブ） ・トンボ池のメンテナンス及びモニタリング 東島森林性海鳥の地（NPO 小笠原自然文化研究所） ・会員による海鳥繁殖環境モニタリングを実施 東平アカガシラカラスバトサンクチュアリー森（小笠原自然観察指導員連絡会、(社)東京林業土木協会外 1） ・保全整備作業の実施	25 年度に引き続き実施予定	「保全管理委員会」で活動状況等を検討
	林 5	ノネコ	父島	引き続き連絡会議と連携しノネコの緊急捕獲を実施。	小笠原ネコに関する連絡会議と連携し実施。（父島、母島での捕獲数 64 頭（飼猫捕獲含む）、うち東京動物病院搬送 56 頭、差の 8 頭は、飼い主へ返却）	引き続き連絡会議と連携し実施。		・小笠原ネコに関する連絡会議等と連携しつつノネコの緊急捕獲を実施	引き続き連絡会議と連携し実施予定。	
固有種等	林 6	希少野生動植物種の保護管理等	父島、母島	希少野生動植物種の保護・保全を実施。 過去の巡視記録等について、データベース化を実施	メグロのライセンス調査を実施して生息状況を確認。 アカガシラカラスバト等の生息状況を調査。 (巡視時に毎回のように確認) ムニンツツジ等 12 種の生育状況等を確認。 (一部に生育不良のものが見られたが、ムニンツツジ 8 株を確認) 昆虫類の生息状況の確認を実施。(確認は少数) オガサワラオオコウモリの生息状況の確認を実施。(確認数は少数) 過去の巡視記録等について、データベース化	希少野生動植物種の保護・保全を実施。		メグロのライセンス調査を実施して生息状況を確認。 アカガシラカラスバト等の生息状況を調査。 ムニンツツジ等 12 種の生育状況等を確認。 (一部に生育不良のものが見られたが、ムニンツツジ 8 株を確認) 昆虫類の生息状況の確認を実施。(確認は少数) オガサワラオオコウモリの生息状況の確認を実施。(確認数は少数)	希少野生動植物種の保護・保全を実施予定。	「保全管理委員会」で検討

事業項目			平成 24 年度		平成 25 年度（見込み）			平成 26 年度予定	課題・備考	
種名	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	モニタリング項目	事業進捗			
	林 7	希少野生動植物種保護管理対策調査	母島列島、父島	アカガシラカラスバトを主体にオガサワラカワヒワについても、引き続き実施	アカガシラカラスバトの出現状況を観察。（確認できたのは、既知の個体） 父島でアカガシラカラスバト3羽に脚環を装着。 母島列島でオガサワラカワヒワに脚環の装着及び生息状況を調査。（若鳥がほとんど）	アカガシラカラスバトについては、標識調査を主にして、目撃情報はヒヤリング等で実施。 鳴き声調査のためのICレコーダーを設置。 オガサワラカワヒワの脚環の装着及び生息状況を調査。	・センサーカメラによるアカガシラカラスバトの観察 ・人工水場の設置要件に伴う外来種駆除箇所における水場の回復状況を定点モニター	アカガシラカラスバトの出現状況を観察。 母島でアカガシラカラスバト3羽に脚環を装着。 ICレコーダーによる鳴き声の記録 母島列島でオガサワラカワヒワの生息状況を調査。（若鳥がほとんど）	アカガシラカラスバトを主体にオガサワラカワヒワについても、引き続き実施予定。	希少野生動植物種保護管理対策調査委員会で検討
	林 8	父島アカガシラカラスバトサンクチュアリの整備	父島	アカガシラカラスバトの生息環境の維持修繕、保護等を引き続き実施。	サンクチュアリー内の生態系維持作業（木道整備等）を実施。 プラナリア対策として、出入口に、酢スプレーを設置。	24年度に引き続き実施予定。			25年度に引き続き実施予定	「保全管理委員会」で検討
	林 9	オガサワラグワの試験的植栽	父島						絶滅危惧種オガサワラグワは、枯死が進み年々減少する中、その保全に資する取組みとして、ジーンバンクにより保存している冬芽を滅菌培養し、その苗木を、現地（小笠原父島の国有林内）に試験的植栽を実施する予定。	
その他	林 10	小笠原諸島における森林生態系保全管理技術事業	兄島等	小笠原諸島の乾性低木林を対象として、侵略的外来種と在来種の種間相互作用に着目した戦略的な外来種対策を含む新たな森林生態系保全管理技術のあり方を検証するため、平成20年度から兄島でのモニタリング調査等を実施。	平成20年度からの検討結果を踏まえ、「森林生態系保全管理手法ガイドライン・兄島モデル」を策定。 事業内容は発展的に「林11」に引き継ぎ、本事業は終了					「種間相互作用ワーキンググループ」にて検討
	林 11	小笠原諸島における森林生態系保全管理手法開発事業	弟島、兄島、父島		「林10」を発展的に引き継ぎ、父島列島の森林生態系を対象として、侵略的外来種と在来種の種間相互作用に着目した戦略的な外来種対策を含む新たな森林生態系保全管理技術のあり方を検証するための事業を開始。 主たる検討対象は、弟島、兄島、父島を選定。	弟島および父島にて調査方形区を設定したほか、兄島では既存の調査方形区を活用し、動植物の概況調査を実施。	検討の方向性や次年度以降のモニタリング項目について検討を実施。	平成29年度に「父島列島生態系保全管理手法ガイドライン」をとりまとめるべく、本格的なモニタリングに着手を実施。	平成29年度に「父島列島生態系保全管理ワーキンググループ」にて検討	

事業項目			平成 24 年度		平成 25 年度（見込み）		平成 26 年度予定	課題・備考	
種名	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	モニタリング項目	事業進捗		
その他外来植物、普及啓発等	林 12	外来植物駆除残置木有効活用調査	父島及び母島	林内に残置している駆除木の有効活用を図ることにより、人家等から 500m 程度以内をも含めた外来種の駆除促進を可能とし、もって侵略的外来種駆除の継続的实施とシロアリ被害の未然防止に寄与することを目的に、駆除残置木の搬出方法の確立と搬出材の有効活用方策の創出等を委託調査により実施。	予定通り実施	林内に玉切・残置してあるアカギ、モクマオウ等について、移動式炭窯等により木炭（黒炭・白炭）化し、地元住民等に配布・PR し、その可能性等についての委託調査を実施。		（同左・調査結果を取りまとめ中）	薬剤注入処理した残地木の木炭化、その成分分析と土壌改良資材等としての利用可能性について、委託調査を実施することを検討。
	林 13	新たな外来種等の予防対策調査	(父島及び)母島	小笠原諸島の価値保全に向け、未知の外来種の侵入・拡散を未然に防止するため、既存の予防措置の検証と問題点を抽出し、対応方策を検討するとともに、防除施設等のあり方を委託調査により検討。	予定通り実施。	24 年度調査結果を踏まえつつ、外来種予防対策施設整備に係る実施設計及び施設に係る施設整備を実施。		24 年度の「新たな外来種等の予防対策調査」を踏まえつつ、母島において外来種対策の拠点施設の整備(調査設計)を実施中	25 年度に引き続き、母島において外来種対策の拠点施設の整備(調査設計、本体工事)を実施
	林 14	森林生態系の保全と利用に関する調査	父島及び母島	世界自然遺産登録以降、観光客等が増加し、固有の森林生態系への影響が懸念されることから、アカガシラカラスバトサンクチュアリ(SA)の保全方法及びそれ以外の新たな観察フィールドの設置等を委託調査により検討。	アカガシラカラスバトサンクチュアリ(SA)の利用状況の整理、および新たな観察フィールドの考え方および候補地を選定。	左記検討を引き継ぎ、新たな観察フィールドとして、父島での「玄関フィールド」の候補地を選定するとともに、「夜明平西ルート」および母島「桑ノ木山ルート」の具体的な整備を実施	新たな観察フィールド候補地における動植物の概況調査を実施	父島の玄関フィールドを選定中。また、母島「桑ノ木山ルート」の活用に向けた整備を実施。	父島において新たなモデル地区の具現化を図るとともに東平 S A と新規観察エリアの利用の分散化方法及び母島における森林生態系保護地域の保全と利用の推進方法を検討する。

林 9 及び 11 以外は、関東森林管理局にて実施

実施機関：東京都

事業項目			平成 24 年度		平成 25 年度（見込み）			平成 26 年度予定	課題・備考	
種名		事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	モニタリング項目	事業結果		
ノヤギ	都 1	父島列島植生回復事業	父島 兄島 弟島	父島のノヤギ排除作業を継続実施。 父島のノヤギ生息数、植生等についてモニタリング調査を継続実施	父島のノヤギ排除頭数（環境省、東京都、小笠原村） 銃器 437 頭 わな 51 頭 合計 488 頭 捕獲圧の高い地域（鳥山、西海岸、中山峠、赤旗山等）の草地では草丈の伸長や増加が見られた。	父島のノヤギ排除作業を継続実施。 父島のノヤギ生息数、植生等についてモニタリング調査を継続実施	父島 ・ノヤギ生息状況（定点観察、船上・陸上カウント）（継続） ・オガサワラノスリ生息状況（船上・定点観察） ・植生調査	父島のノヤギ排除頭数（環境省、東京都、小笠原村） 銃器 395 頭 わな 35 頭 合計 430 頭 父島全域では植生に関する有意な変化は見られない	父島のノヤギ排除作業を、エリアを拡大して継続実施。 ノヤギ生息数、植生等についてモニタリング調査を継続実施 兄島及び弟島における植生コドラート調査（兄島 6 箇所、弟島 3 箇所（3～5 年毎であり、今回 H26 予定）	「父島ノヤギ排除検討委員会」にて検討
プラナリア	都 2	都レンジャーの配置	父島 母島 属島	・父島から母島及び属島への拡散を防止するための普及啓発や利用者指導を継続実施	平成 24 年度より 7 名体制に強化（父島 4 名、母島 3 名）	・父島から母島及び属島への拡散を防止するための普及啓発や利用者指導を継続実施。		普及啓発及び利用者指導等を実施	継続実施	
アカギ・モクマオウ・リュウキュウマツ・ギンネム・ヤダケ・その他外来植物	都 3	都 3 都 4 都 5 所有地外来植物対策事業	父島 弟島	1 父島の所有地で、モクマオウ等の外来植物駆除を実施。 2 弟島の所有地における駆除計画を策定	夜明山周辺の国有林隣接地で駆除を実施。 モクマオウ 2 本 リュウキュウマツ 12 本 ギンネム 1 本 シマグワ 1 本 キバンジロウ 51 本	24 年度に夜明山の所有地に設置したキバンジロウ駆除試験地の効果を確認する。 鹿の浜の所有地で、在来樹林を被圧しているモクマオウ等の駆除を実施	薬剤処理したキバンジロウの枯死状況確認。	今回の試験では伐採塗布が効果的でなかったが、薬剤注入による枯死は確認できた。しかし根茎が繋がった個体は同時に駆除できなかった。 モクマオウ 2169 本 リュウキュウマツ 1085 本 ギンネム 13 本 引き抜き本数 1709 本	父島の所有地において、キバンジロウの効果的な駆除方法を検討するために試験駆除を継続して実施予定。 25 年度事業地及び林野庁事業地の隣接地において、モクマオウ等の駆除を継続して実施	「父島列島外来植物対策検討委員会」にて検討
	都 4	聾島列島植生回復事業	聾島 媒島	ギンネム・タケ・ササ類の駆除を継続して実施（聾島、媒島） 土壌流出が著しく、植生基盤への影響が大きいエリアにおいて、土留めダムや侵食防止シートの設置、緑化移植工等を継続して実施（媒島） 継続してモニタリング調査を実施（聾島、媒島）	ギンネムの駆除作業を継続して実施（聾島 1.0ha、媒島 5.1ha） ・ダム 1 基改修 ・イネ科緑化移植工 4800 m ² ・浸食防止シート工 2500 m ² モニタリングにおいて、大きな変化はなし。ギンネムは分布拡散を確認。	ギンネムの駆除を継続して実施（聾島、媒島） 土留めダムや侵食防止シート等については、施工体制が確保できず、実施を見送った（媒島） 継続してモニタリング調査を実施（聾島、媒島）	ギンネム、植物群落、残存林、海鳥類、昆虫類等	ギンネム駆除 聾島 3.0ha、媒島 3.6ha 地域によっては減少傾向に転じており、駆除の効果が現れている 媒島全体では崩壊よりも植生復元の速度が上回っていることを確認 森林の回復が緩やかに進んでいく可能性を確認	ギンネム駆除を継続して実施	「小笠原国立公園聾島列島植生回復調査検討委員会」及び「小笠原国立公園媒島・聾島植生復元測量調査・設計検討委員会」において検討
	都 5	父島列島外来植物対策事業	父島 兄島 孫島	ノヤギの根絶・減少に伴い拡散の恐れがある外来植物を駆除。 1 ギンネム：母樹の駆除実施。実生・稚樹の確認及び駆除 2 モクマオウ等：兄島北部において駆除計画を策定	1 ギンネム駆除 父島：中山峠、巽崎、鳥山（母樹 840 本、稚樹 11000 本） 兄島：滝之浦、夕比ヶ浜周辺、二俣岬（母樹 3500 本、稚樹 55000 本）	ギンネム駆除 父島：巽崎 兄島：二俣岬、タマナ崖部、滝之浦周辺及び万作浜周辺 モクマオウ等駆除 父島：巽崎 兄島：二俣岬～尖山、南沼 孫島	・土壌等への薬剤残留量 ・陸産貝類 ・植生 ・昆虫類 ・鳥類	ギンネム駆除 父島巽崎：引き抜き 506 本 父島中山峠：230 本 引き抜き 7013 本 兄島二俣岬：11 本 引き抜き 74 本 兄島タマナ崖部：5157 本 引き抜き 44367 本 兄島滝之浦周辺：2496 本 引き抜き 74431 本 兄島万作浜：5952 本 引き抜き 39578 本 モクマオウ等駆除 父島巽崎：モクマオウ 277 本 ギンネム 8 本 兄島二俣岬～尖山、南沼： モクマオウ 10658 本 リュウキュウマツ 11005 本 孫島：モクマオウ 65 本 シマグワ 366 本	継続して実施 ギンネム駆除 父島：巽崎、鳥山 兄島：二俣岬、タマナ崖部、滝之浦周辺及び万作浜周辺 モクマオウ等駆除 父島：巽崎 兄島：二俣岬～尖山周辺、南沼	「父島列島外来植物対策検討委員会」にて検討

事業項目			平成 24 年度		平成 25 年度（見込み）			平成 26 年度予定	課題・備考	
種名	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	モニタリング項目	事業結果			
	都 6	南島植生回復事業	南島	侵略的な外来植物の排除を継続実施。 (シンクリノイガ等の外来草本及びモクマオウ、ガジュマル等の外来木本)	シンクリノイガ等の外来草本 53 回実施し、5800kg 駆除(90 ゴミ袋で 1100 袋) 生育する外来木本の全てを駆除。(モクマオウ 2 本、ガジュマル 1 本)	侵略的な外来植物の排除を継続実施。 (シンクリノイガ等の外来草本及びモクマオウ、ガジュマル等の外来木本)	外来植物の分布状況(継続) 駆除後の状況把握(継続)	シンクリノイガ等の外来草本(3月1日現在) 46 回実施し 4100kg 駆除(90 ゴミ袋で 574 袋) 生育する外来木本の全てを駆除。(モクマオウ 3 本、シマグワ 1 本)	侵略的な外来植物の排除を継続実施。 (シンクリノイガ等の外来草本及びモクマオウ、ガジュマル等の外来木本)	地元 NPO においても関連機関(小笠原総合事務所 国有林課、小笠原村)の協力のもと外来種駆除ボランティアを実施している。
		南島植生回復調査	南島	ネズミ類生息状況や生態系モニタリング(甲殻類、植生景観等)を継続して実施	・ネズミ類の生息確認なし	ネズミ類生息状況や生態系モニタリングを継続して実施。	外来ネズミ生育状況(継続) 生態系モニタリング(甲殻類、は虫類、植生景観等)	26 年 1 月にネズミ類の生息を確認	ネズミ類の生息状況を確認するためのモニタリングを継続するとともに、駆除に向けた検討を実施。あわせて生態系モニタリング(鳥類、甲殻類等)を継続して実施。	「南島植生回復調査検討委員会」にて検討
アカガシラカラスバト	都 8	アカガシラカラスバト保護増殖事業(域外保全)	内地	継続して保護増殖を実施	傷病個体 1 羽をファウンダーに追加。 35 羽飼育(上野 27、多摩 8)。 産卵 43、孵化 9、成育 6	継続して保護増殖を実施		傷病個体 4 羽をファウンダーに追加。 36 羽飼育(上野 31、多摩 5)。 産卵 27、孵化 6、成育 2	継続して保護増殖を実施	アカガシラカラスバト保護増殖分科会にて検討
	都 9	アカガシラカラスバト生息調査	火山列島	北硫黄島における生息調査	父島で放鳥したアカガシラカラスバトを北硫黄島で確認	北硫黄島における生息調査を継続		(天候不良等により中止)	北硫黄島における生息調査を継続	アカガシラカラスバト保護増殖分科会にて検討
オガサワラシジミ	都 10	オガサワラシジミ保護増殖事業(域外保全)	内地	継続して保護増殖を実施し、飼育繁殖技術の確立を目指す。	10 月 1 捕獲、採卵後放蝶 採卵数 87、孵化数 70、羽化数 51 2 月 21 日最後の 1 個体死亡。交尾成功せず。 現地への飼育技術移転のため都レンジャー母島担当者の多摩動物公園での飼育実習の実施	継続して保護増殖を実施し、飼育繁殖技術の確立を目指す。 現地への飼育技術移転のため都レンジャー母島担当者の多摩動物公園での飼育実習の実施		第 1 回目:7 月 1 捕獲、採卵後放蝶(採卵数 29、孵化数 13、羽化数 3 10 月 5 日最後の 1 個体死亡、交尾成功せず) 第 2 回目:10 月 12 日 1 捕獲、採卵後放蝶(採卵数 84、(許可数 100 を 13 個体超過 環境省・文化庁 指導) 孵化数 84、超過分 13:母島にて飼育 羽化数 7、放蝶数 7 許可分 71:多摩に移動 羽化数 53 3 月 11 日現在 1 6 生存。交尾成功せず 都レンジャー母島担当者が多摩で飼育実習を実施	継続して保護増殖を実施し、繁殖技術の確立を目指す。 現地への飼育技術の移転を進める。 情報交換、現地施設への協力	「小笠原希少昆虫保護増殖事業連絡会議」にて検討
	都 11	オガサワラシジミ保全事業	母島			母島船見台の都有地において、敷地内に生育するオオバシマムラサキ(親木)の生育状況調査及び圃場整備、オオバシマムラサキ穂木の植栽等を実施したほか、オガサワラシジミ飼育に向けた作業マニュアル案を作成	敷地内餌木生育状況(継続)	植栽試験地 挿し木 28 本 播種 10 粒 ネットハウス内 挿し木 58 株 播種 144 粒	親木の生育環境改善作業、植栽株の育成作業、を実施	「小笠原希少昆虫保護増殖事業連絡会議」にて検討

事業項目			平成 24 年度		平成 25 年度（見込み）			平成 26 年度予定	課題・備考	
種名		事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	モニタリング項目	事業結果		
オガサワ ラオオコ ウモリ	都 12	オガサワラオオコ ウモリ保全事業	父島	冬季のオガサワラオオコ ウモリの行動圏及び都 有地の利用状況について の調査を継続実施。 ねぐらに近い都用地にお いて環境改善作業(外来植 物駆除)を実施。	行動圏、餌木等の状況を把握	秋季～冬季の行動圏等について、 前年度より継続して調査を実施		行動圏、餌木等の状況を把握	夏季～秋季の行動圏調査等 を実施予定	
アホウド リ類	都 13	アホウドリ類繁殖 状況調査	聳島列島 父島列島 母島列島	・繁殖状況調査を継続し て実施 ・聳島列島におけるアホ ウドリの飛来・繁殖モニ タリングに着手	アホウドリ飛来 ・飼育個体 5 羽、野生個体 3 羽 ・無性卵の産卵確認 クロアシアホウドリ繁殖数 ・聳島列島 933 羽、 ・父島列島 7 羽 ・母島列島 14 羽 コアホウドリ繁殖数 ・聳島列島 11 羽	継続して実施		アホウドリ飛来 ・飼育個体 3 羽、野生個体 5 羽 ・無性卵の産卵確認 クロアシアホウドリ繁殖数 ・聳島列島 1132 羽、 ・父島列島 12 羽 ・母島列島 13 羽 コアホウドリ繁殖数 ・聳島列島 18 羽	地元 NPO 小笠原自然文 化研究所 と連携して 実施。	
オガサワ ラグワ	都 14	弟島オガサワラグ ワ保全	弟島	弟島におけるオガサワラ グワの残存状況等の調査 及び保全計画の作成	弟島オガサワラグワ保全計画を 作成	保全計画に基づき、成木の生育状 況及び開花、結実状況、実生及び 稚樹の生育状況等の調査、播種試 験等を実施	成木・稚樹生育状況 播種試験地生育状況	成木 29 本 播種した種の生育状況につい ては調査中	保全計画に基づき、成木及び 稚樹の生育状況等の調査、播 種後の育成等を実施	「弟島オガサワラグワ 保全検討会議」にて検 討
その他	都 7	南島自然環境モニ タリング	南島	利用と自然環境に関する モニタリングを継続して 実施	大きな変化は見られない	利用と自然環境に関するモニタ リングを継続して実施	自然観察路、植生ルート及びコドラ ート、海鳥類、訪花昆虫、フェノロ ジー、ヘリトリオカガニ等（継続）、 陸産貝類（新規）	ヘリトリオカガニの巣穴数が 大幅に増加、ハマユウの開花数 増加とこれに伴うオガサワラ ツヤハナバチの訪花動態の大 幅な変化等を確認	利用と自然環境に関するモニ タリングを継続して実施	「南島自然環境モニタ リング調査検討委員 会」にて検討
		石門自然環境モニ タリング	母島	利用と自然環境に関する モニタリングを継続して 実施	大きな変化は見られない	利用と自然環境に関するモニタ リングを継続して実施	希少植物及び外来植物出現地点、定 点写真、土壌侵食状況、鳥類、利用 状況（継続）	希少植物確認地点が増加、踏み 抜きや道形の崩れによる土壌 侵食地点が増加	継続してモニタリングを実施	「専門家合同ヒアリン グ」を実施

実施機関：小笠原村

事業項目			平成 24 年度		平成 25 年度		平成 26 年度予定	課題・備考		
種名	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	モニタリング項目	事業結果			
シンクリノイガ	村 1	外来種啓発事業	南島	南島で 1 回実施	参加人数 30 名	兄島滝之浦で実施		参加者数 30 名	南島及び属島で実施予定	南島以外の属島での実施に関しては、調整が必要
オガサワオオコウモリ	村 2	農作物被害対策事業	父島	硬質樹脂ネットを使用した農作物被害防除対策施設等の設置を希望する者に対し、施設等設置に要する資材を無償貸与する事業を実施する。	施設設置 3 件、器具設置 2 件実施。	硬質樹脂ネットを使用した農作物被害防除対策施設等の設置を希望する者に対し、施設等設置に要する資材を無償貸与する事業を実施する。農作物被害実態及び防除策設置希望調査、農作物被害防除対策保護管理マニュアル作成を実施する。	モニタリングは、実施せず。	施設設置 4 件実施。農作物被害実態及び防除策設置希望調査 12 件	硬質樹脂ネットを使用した農作物被害防除対策施設等の設置を希望する者に対し、施設等設置に要する資材を無償貸与する事業を実施する。農作物被害実態及び防除策設置希望調査、農作物被害防除対策保護管理マニュアル作成を実施する。	父島の農作物被害実態及び防除策設置希望については、平成 25 年度から実施。全容を把握するためには時間を要する。更に、安価で簡便な防除対策保護管理マニュアル作成と連携が必要。

実施機関：民間・共同・その他

事業項目			平成 24 年度		平成 25 年度		平成 26 年度予定	課題・備考		
種名	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	モニタリング項目	事業結果			
ネコ	民 1 環 2	緊急捕獲事業、平成 21 年度より山域捕獲事業	父島 母島 弟島	母島北進線において、アカガシラカラスバト保護のため、ノネコの緊急捕獲を行う。	31 頭捕獲し、父島で一時飼養後に、東京都獣医師会へ搬送した(3/7 現在)。	母島北進線において、継続実施		35 頭捕獲し、父島で一時飼養後、東京都獣医師会へ搬送した。(3月12日現在：搬送予定も含む)	母島北進線において継続予定。	地元 NPO 小笠原自然文化研究所 が実施。<小笠原のネコに関する連絡会議>において共同実施、<東京都獣医師会>が協力
ネコ	民 2	適正飼養推進事業	父島 母島	23 年度と同規模で実施。更なるマイクロチップ挿入率の向上と適正飼養の推進を図る。 新規転入者への周知徹底を図る。	派遣動物診療団により、父島・母島で計 132 頭のネコを診療し、このうち未装着なネコ 6 頭にマイクロチップを挿入し、挿入率は 67% を達成した。 派遣獣医師による飼い主との懇談会を開催し、適正飼養の推進と野生動物保護の理解を図った。 また、獣医師との意見交換会、小中学校等での次世代教育を実施した。	24 年度と同規模で実施。更なるマイクロチップ挿入率の向上と適正飼養の推進を図る。 派遣診療時における飼い主への趣旨説明や次代を担う小中学生への普及啓発を強化し、自然保全意識の向上を図る。		東京都獣医師会協力のもと、小笠原動物派遣診療を開催し、父島・母島で計 128 頭の愛玩動物を診療した。このうち 4 頭のネコにマイクロチップを挿入し、挿入率は 81% を達成した。 また、派遣獣医師による飼い主との交流会の開催、小中学生への出前授業を実施し、適正飼養の推進と自然保全意識の向上を図った。		事業費については村負担。<小笠原のネコに関する連絡会議>において協力、<東京都獣医師会>が協力
アホウドリ類	民 3	アホウドリ類繁殖状況調査	聳島列島 父島列島 母島列島	繁殖状況調査の継続実施。	クロアシアホウドリ繁殖数 ・聳島列島 933 羽、 ・父島列島 7 羽 ・母島列島 14 羽 コアホウドリ繁殖数 ・聳島列島 11 羽	継続して実施		クロアシアホウドリ繁殖数 ・聳島列島 1132 羽、 ・父島列島 12 羽 ・母島列島 13 羽 コアホウドリ繁殖数 ・聳島列島 18 羽		地元 NPO 小笠原自然文化研究所 と連携して実施。
アカガシラカラスバト、オガサワラオオコウモリ	民 4	現地トラブルへの対応	父島、 母島			アカガシラカラスバト、オガサワラオオコウモリに関する機関横断的な現地トラブルに対応するため、情報共有し、現地で対応可能なことを関係機関で連携、話し合う。		・ハトの交通事故予防対策を実施、大神山公園における観光客との軌線解消を試行 ・コウモリめぐら周辺に関する情報共有	・ハトについては、現地トラブルへの対応を継続する。 ・コウモリについては、各取組を体系的に進められる場として機能させる。	

[実施機関]

No.1 小笠原ネコに関する連絡会議(自然保護官事務所、小笠原総合事務所国有林課、支庁、村、村教委、NPO 小笠原自然文化研究所)、小笠原自然解説指導員連絡会、(社)東京都獣医師会が実施。

協力:島内獣医師、ボランティア(捕獲・飼育)、小笠原海運(株)、母島観光協会、関東地方環境事務所、東京都環境局

No.2 (社)東京都獣医師会と小笠原ネコに関する連絡会議(自然保護官事務所、小笠原総合事務所国有林課、支庁、村、村教委、NPO 小笠原自然文化研究所)が実施。 協力:NPO どうぶつたちの病院。主な活動資金は(財)自然保護助成基金助成事業による。

No.3 東京都小笠原支庁、NPO 小笠原自然文化研究所

No.4 アカガシラカラスバト・オガサワラオオコウモリに関する現地連絡会(小笠原自然保護官事務所、小笠原総合事務所国有林課、小笠原諸島森林生態系保全センター、支庁、村、村教委、NPO 小笠原自然文化研究所)